

## 平成29年度 第3回（震災後79回）

### 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「地域に入っていくということとは？」

～その地域の持っている力を醸成していくためには～

日時：平成29年7月20日(木)13:30～15:30

場所：陸前高田市役所4号棟第6会議室

参加：30名 12団体

資料：下記にアップ

<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

#### 1 挨拶（陸前高田市民生部長兼保健課長 菅野利尚）

今回は主に支援者側の話になると思うが、地域に入っていくときには、地域住民の主体的な参加意識が重要となる。どうすれば、地域の人たちの意識を高めていけるかという問題意識を持った上で、会議に参加してほしい。

#### 2 内容

##### (1) 未来図会議が目指してきたこと

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也

##### (2) 地域支え合い協議体について

陸前高田市民生部長兼保健課長 菅野利尚

##### (3) 陸前高田市内で始まっている地域支え合い協議体の実際について

陸前高田まちづくり協働センター

生活支援コーディネーター 黄川田美和氏

##### (4) 参加者のみなさまと「はまってけらいん、かだってけらいん」

グループワーク

テーマ：私だったら、地域にどのように関わることができるか？

##### (5) その他連絡・アナウンス

##### (1) 未来図会議が目指してきたこと

（陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー岩室紳也）

国は「地域を動かす」という視点から、地域包括ケアシステムを構築しようとしている。

具体的には、おおむね日常生活圏域30分圏内にサービスが提供できる

ようにすることを目的としている。

しかし、地域差を無視して、上記のように考えてもあまり意味がない。首都圏の浦安と、東北の人口2万人以下の陸前高田市でやり方が異なるのは当然である。

陸前高田市は女性の平均寿命が岩手県1位となっている、さまざまな要因が考えられるが、保健推進員、食改等を含めた地域住民の活動が大きく貢献している。活動の目的は人をつなぐことにある。

そして、国も健康のために地域のつながり強化することを提唱している。

人と人をつなぐには絆、ほだし（信頼、ネットワーク、お互いさま）が重要である。人と人が繋がることで、健康度が上がり、自殺率が下がり、総死亡率も低下する。

## (2) 地域支え合い協議体について

（陸前高田市民生部長兼保健課長 菅野利尚）

健康寿命を延ばすためには、より多くの人々が努力し続けられるような環境を整えることが必要である。人間が努力し続けるためには、自分自身を周りの人に理解してもらい、はじめて、主体的に社会に貢献していくことができる。

従来の介護保険は一定の評価は出来るが、介護給付を受けることで、一つの家族が地域から隔絶されてしまうといった側面があった。

人間同士の関係性をより多く結べば、生きがい生まれる、核家族化の進行などにより、今後地域が果たすべき役割は大きい。

中でも高齢者を地域に関わらせていくためには、ないものを作るのではなく、今ある能力が発揮できる場を用意することが重要である。

## (3) 陸前高田市内で始まっている地域支え合い協議体の実際について

（陸前高田まちづくり協働センター

生活支援コーディネーター 黄川田美和氏）

まちづくり協働センターのミッションは住民1人ひとりが主役の持続可能な地域づくりです。具体的に何をするかと言えば、住民の皆さんの話を聞いて、住民の活動に寄り添い、様々なカタチで支援している。

支え合い協議体とは、何か役を持った人だけが参加するものではなく、その地域に生活していれば誰でも参加できる「場」を、目指している。

難しい話をするわけではなく、生活の話をする「場」である。

コーディネーターとは地域が必要としている人や事をつなぐことを意識して、地域の人と話しをする。具体的には世間話をどのように専門家や窓口につなぐ。

長部の当事者が集まる「場」には参加者同士が見守る関係がある。当事者が前向きになり、教え合ったりする、自然体が何より大事な場所。

横田の関係者たちが集まる「場」は役割を持った人たちが、今後役員以外の方にも参加してもらえる場づくりをめざして進めている。

高田の何かやらなきゃ！から始まった「場」はまずは自分たちが出来る事を考え、ちょっとした解決の糸口を話し合っている。

三か所で共通しているのは、自分が生活している地域の事を話し、他人事ではなく自分ごととして考えていること。

高齢者にはいろんな人が関わりをもっているが、高齢者を対象としたサービスはあっても、支えている人（家族）へのサービスはない、そこを地域で支えられれば良い。何もできなくても、話を聞くことができる。

一方で出来ることがある人は出来ることを前面に出して地域に関わっていくことができる。

支え合いはできることの交換、得意なことで誰かの支えになれるので気負わずはまかだしていく。

## 質問

- 1 生活支援コーディネーターは現在何名？
- 2 地区割りはどうなっている？  
(陸前高田市社会福祉協議会 松本氏)

## 回答

- 1 合計3名  
第1層（陸前高田市全体）1名  
陸前高田市保健課生活支援コーディネーター 金野康子  
第2層（コミセン単位）2名  
陸前高田まちづくり協働センター 黄川田氏他1名
- 2 各地区コミセン単位 今年度10ヶ所に協議体を設置  
今後、今泉に1地区をプラスする予定  
(回答：陸前高田市保健課包括支援係長 佐藤咲恵  
陸前高田まちづくり協働センター 黄川田美和氏)

※ 生活支援コーディネーターの岩手県研修会について

(陸前高田市保健課生活支援コーディネーター 金野康子)

陸前高田市の取組みは県内でも先進的であり、沿岸他市町村についても取組みが進んでいる。県北はあまり整備されていない。

陸前高田市では1層、2層で連携をとって各地域で情報収集、住民の困りごとを聞き、地域の資源をさがしているといった取組みが行われている。

#### (4) 参加者のみなさまと「はまってけらいん、かだってけらいん」

##### グループワーク

テーマ：私だったら、地域にどのように関わることができるか？

##### 1 グループ発表

- ・ 普段の人付き合いが大事
- ・ 協働作業が人付き合いのきっかけになる。
- ・ 住宅再建先では協働作業が必要である。
- ・ 日赤奉仕団では70代女性が活躍している。高齢化を恐れる必要はない。

い。

##### 2 グループ発表

- ・ 自分ごととしてとらえることが大事
- ・ 住民さんが居場所を見つけることが大事
- ・ 竹駒21の会では、そば打ち、子どもたちの居場所づくり等の活動を行っている。他地区の青年会のみなさんがどんな活動をしているのかを知りたい

##### 3 グループ発表

- ・ 仕事、生活に関する情報が必要
- ・ 集まりになるべく参加し、空気を感じてくる
- ・ 住宅再建先の地域行事になるべく参加
- ・ ラジオ体操や移動販売といった機会を使った工夫

##### 4 グループ発表

- ・ 地域にとって何ができるかを考える
- ・ どうやってはまかだできるか？
- ・ 新しい災害公営住宅で、人を集める方法（年代も高い、70代は若い

方)

まずは定例会などをしかけて集まるようにしていく  
市やNPOなど助けてくれる人がほしい

#### 5 グループ発表

- ・高齢化が進行している。
- ・草刈り機が使える人が少ない
- ・七夕まつり、班当番制でも参加者が減っている
- ・泊お楽しみクラブへの関わり
- ・できる人へつなげるという活動を行っている。
- ・挨拶をまず行うことが大事

#### 陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー岩室紳也

ソーシャルキャピタルは、信頼、ネットワーク、お互いさまで成り立つ。  
陸前高田の中の小さなソーシャルキャピタルを生み出そうとしているのが生活支援コーディネーターであり、支え合い協議体である。

#### 陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー佐々木亮平

協議体をつくるのは目的ではなくあくまで手段である。協議体を手段として、ソーシャルキャピタルを形成していく。

◆次回（第80回）：平成29年8月18日（金）13：30～15：30

メインテーマ（案）：

だれもができる住みやすいまちづくり ～自殺予防対策～

会場：陸前高田市役所 4号棟3階第6会議室